

心機能の検査機器付属のハードディスクの紛失に関するお詫びとご報告

令和8年7月31日

この度、過去に当院で心電図などの心機能に関する検査を受けられた入院・外来の患者様の個人情報記録されたハードディスクの紛失が判明しました。

紛失したハードディスクは検査機器に内蔵されていたもので、廃棄のために取り外した後、施錠された倉庫で保管しておりました。令和8年4月16日（木）に紛失の判明後、直ちに当機構内の搜索を開始いたしましたが、現在まで発見には至っておりません。

現時点では、当該ハードディスクに保存されていた個人情報外部へ流出した事実や、不正に利用された事実は確認されておりません。

患者様、ご家族ならびに関係者の皆様には多大なるご心配をお掛けすることとなりましたことを、心より深くお詫び申し上げます。

当該ハードディスクには、①心電図などの心機能に関する検査情報（患者ID、氏名、年齢、性別、検査日、心機能に関する検査結果等）及び②検査実施のための患者情報（病名、感染症に関する検査結果、投薬状況等）が、1998年12月15日から2023年12月27日までに検査を受けられた83,007名分保存されておりました。なお、住所及び電話番号の情報は含まれておりません。

当該ハードディスクにパスワードロック機能はありませんでしたが、検査機器に接続してデータを閲覧することを前提としているものであり、また②検査実施のための患者情報については、データが生成から1ヶ月後に自動的に削除される設定とされていたこと、バックアップデータも確認可能な機器等が極めて限られることなどから、基本的に閲覧は困難であることを検査機器メーカーに確認しております。

対象となる患者様には、個別にご連絡し、お詫び申し上げます。

このような事案を発生させたことは、個人情報を取り扱う医療機関として、決してあってはならないことであり、事態を重く受け止めるとともに、深く反省しております。

再発防止策として、今後は個人情報が保存されたハードディスクなどの記憶媒体について、原則として院内において確実に物理的に破壊し、複数名でデータの読み出しが不可能であることを確認したうえで廃棄いたします。

さらに、やむを得ずデータ消去や物理的破壊を外部事業者に委託する場合には、引き渡しまでの保管場所について、防犯カメラの設置や管理者同伴による入室管理等、安全管理措置を強化します。また、委託業者におけるデータ消去及び廃棄が確実に実施されたことを確認する体制を徹底いたします。

今後は、これらの対策を確実に実施し、同様の事案を二度と発生させることのないよう、再発防止に全力で取り組んでまいります。

また、引き続き、ハードディスクの搜索、外部への流出や不正な利用の有無に関する調査を継続して行ってまいります。

本件に関して、ご不明な点やご不安がございましたら、下記の「専用のお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

お問い合わせ窓口（専用コールセンター）

連絡先：0120-314609

受付時間：平日 9:00～17:00

令和8年7月31日

国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター
院長 宮崎 英世